

inspiral 『風』進行台本

カゼノカタチ。

風が吹く、孤独に吹いているのか。

風が巻く、誰かを伴いたいのか。

風が鳴く、それは何の呼び声か。

風がそよぐ、あなたの肩を叩く。

風は行く、自らの心に任せて？

カゼ (emi)、独りで舞台に立っている。

その姿は足跡を持ったようにも見える。

華やかさ、

夢や希望、

人との触れ合い、

生きてきた時間の流れ、

圧迫、

すれ違い、

ネガティブな心とポジティブな心の反発。

孤独。

カタチ (中野) 現れる。

カゼの姿を言葉によって表していく。

それらは必ずしもポジティブな言葉ばかりではない。

「ここにいること」

「ここまで来たこと」

「足を踏み出してきたこと」

「立ち止まっていること」

「発言」

「発話」

「対話」

「齟齬」

「回らない螺旋」

「対流せず滞留する状況、状態」

カゼ、カタチの言葉に反発する。けれど、自ら納得しているようでもある。納得する自らも反発しているように見える。

カゼとカタチの対話。

カゼは身体で、カタチは言葉での対話。

カゼの言い分・・・形を与えられることの不自由さを語る
カタチの言い分・・・形がないこと不安定さを語る

「君が好きないようにしたとして、それは君にとって好きなことであって、皆が好きだと思うようなことだとは限らない。

そういうことを君は考えているのか。

君が心地よく吹くことが、皆にとって心地よいとは限らない。

君の思うそよ風によって、寒さを感じ、凍える者もいるかもしれない。そういうことを考えたことはあるか？」

カゼは反発し、カタチを受け入れず、苦悩する。

カタチは、語る。

「言葉はすれ違う。

すれ違うことを認識するために、言葉はあるのかもしれない。

体はまじりあわない。

肉体の境界線が、他者との境界であるからだ。

境界を持つ肉の体から発せられた言葉は、すれ違うに決まっている。

あなたはあなた、私は私。

そういうカタチを伴うことで、人々それぞれを保つのだ。

人それぞれであればこそ、言葉は意味を持つ。

あなたと私は違う人。

私とあなたは違う人。

吹き行く風は人にはならず、

人は空を飛べるようにもなりはしない。

では、飛んでいくのは何か？

風に吹かれ、飛んでいくのは何なのだろうか？」

カタチ、人となる。

孤独な人。

それはカゼの別の形か。

カタチはつぶやく。

どこにも行きつかない言葉。

どこにも届かない言葉。

それは手紙かもしれない。

それは電話かもしれない。

それはSNSでのメッセージかもしれない。

どこにも届かない言葉たち。

何のためにその言葉はあるの？

言葉を生み出し、

どこにも届かないのなら、

生み出した言葉たちは一体どこに行くのだろうか？

誰にも届かない言葉はないのと一緒にだ。

本当に？

苦悩するカタチ。

いくつもの紙片。

書いては捨てる。

書いては捨てる。

書いては捨てる。

カゼが、言葉を巻き上げる。

カゼが巻き、言葉はどこかへ届けられる。

その姿は鳥に似る。

空を飛び、言葉は舞う。

飛んだ言葉は空を舞い、月に着く。

月のクレーターに花開く、言葉たちを見る。

再び、カタチ。

自ら言葉を生み出す意味を知る。

「言葉はいつか花開く。

開いた言葉は月明り。

クレーターに沈み込む、捨てられクシャクシャになった言葉たちは、
思いの種だ。

風が運ぶ。

寄り添い、触れ合い巻き上げて、人の思いに吹き込んで。

人の思いをひとさらい。

さらって運んでひらひらと、

その姿は鳥だ。

鳥が飛ぶ。

風を受けて翼を羽ばたき、月へ舞う。

言葉が舞う。

月に咲いた言の花が、

ささやく」

ここにいる。

私は、ここにいる。

知っていますか？

知っています。